

国 語 科

羽場邦子・竹森文美・谷 栄次・浜岡恵子

I 研究の経緯

1 昨年度までの研究

今回の学習指導要領改訂により、小学校でも中学校でも「伝統的な言語文化」が重視され、教科書には多くの古文や短歌・俳句、漢文が内容として取り上げられている。しかし、俳句や短歌の作品が多くの学年にあったり、小学校高学年と中学校で作品の重なりが見られたりとその系統性が曖昧になってしまっている。

これまで本校国語部では、1年次に「伝統的な言語文化」に関しての小・中学校の9年間の学びをどうつなげていくのかを検討してきた。それが表1である。

表1 「伝統的な言語文化」に関する小・中9年間の学びのつながり

I 期		II 期		III 期
小1・2	小3・4	小5・6	中1	中2・3
具体的でイメージしやすいもの		作品世界		抽象的で背景となる知識が必要なもの
複数の作品にふれて楽しむ ↓ 生活経験や具体的な事象との関連の重視 ↓ 出会い、楽しむ - 内容の面白さを実感する -		複数の作品を比較する ↓ 先人のものの見方や考え方との比較の重視 ↓ 興味・関心を広げる - 魅力や価値に気づく -		一つの作品を深める ↓ 歴史的背景や生活状況、生き方や価値観の重視 ↓ ふれる機会を自ら求める - 魅力や価値を掘り下げる -
自由に想像する	〈根拠をもって推論・想像する〉		豊かに想像する	深く想像する
「伝統的な言語文化への親しみ」のレベル				
「こんなものがあるんだ」	⇒	「おもしろいな」	⇒	「もっと読みたい」 ⇒ 「くわしく知りたい」

1年次は、児童・生徒の発達段階を考慮に入れながら授業観の違いを浮き彫りにすることをねらい、俳句に絞って授業研究を行った。学年が下がるほど実物や写真、絵本など視覚的にとらえさせることが効果があること、学年が上がるほど、一文字の違いによる意味の違い、微妙なニュアンスの違いなど言葉の深みへの追求が可能になることなどが明らかとなった。俳句を鑑賞するには、根拠となる言葉を手がかりに他の言葉と関係づけたり、既存の知識と結びつけたりする思考力・想像力が重要になる。そこに生まれる考えや思いのずれ・差異が児童・生徒の関心をさらに高めることにつながっていく。また俳句の創作や鑑賞文を書くなどの表現活動を取り入れることが親しみのレベルの変容に効果的であることもわかった。

2年次は、俳句に限らず多様な「伝統的な言語文化」の授業研究を行った。1年次の取り組みを生かして児童・生徒の表現活動を重視することにした。昔話の再話、ことわざ・故事成語の短文づくり、落語の実演、短歌での作者なりきり作文などがそれにあたる。表現活動を位置づけることで、どの学年においても「伝統的な言語文化」のもっている価値を自己の内面に取り込み、くぐらせる貴重な場となった。また、そうした活動は児童・生徒の現実の生活感や生き方とかかわらせることに直結し、俳句と同様、親しみのレベルの変容に効果をもたらすことが明らかになった。

「伝統的な言語文化」には、今を生きる児童・生徒があまり見聞きしない独特の言い回しや表現、その時代に生きていた人の考え方や価値観が存在している。それらを思考力・想像力を働かせて児童・生徒に新たな発見として気づかせたり、表現活動と結びつけながら現実の生活感や生き方とかかわらせてりすることで、「伝統的な言語文化」に親しむ態度が培われていく。

2 今年度の取り組み

学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容は、伝統的な言語文化に関する事項、言葉の特徴やきまりに関する事項、文字に関する事項の3つである。今年度は、「漢字文化」に焦点をあて、小・中学校の学びがつながる授業のあり方を探っていくことにする。ここでいう「漢字文化」とは、言葉の働きや特徴、語句に関する事項、漢字の読み書きや使い方といった文字文化としての漢字も含み、それら全てを「漢字文化」とし、「伝統的な言語文化」の一つとしてとらえている。

(1) 漢字に関わる学習内容とその指導

教科書に扱われている漢字に関わる学習内容を整理したものが図1である。大きく「文字としての漢字」、「熟語としての漢字」、「文化としての漢字」の3つに分類した。

漢字学習では、小学校6年間で常用漢字の1006文字を、中学校3年間で常用漢字の全てを習得することが求められ、そのために覚えることが目的化した機械的・訓練的・反復的な指導に偏りがちである。そこで、児童・生徒が「漢字文化」に関心をもち、楽しみながら漢字にふれる機会を増やしていくことをもっと重視したい。そして、学習する中で漢字のきまりや価値、そのおもしろさや奥深さに気づき、実感できるように、計画的・段階的・螺旋的な指導をしていくことを大切にする。こうした学習経験を豊かにしていくことが、「漢字文化」に親しむ児童・生徒の育成につながっていくと考えている。

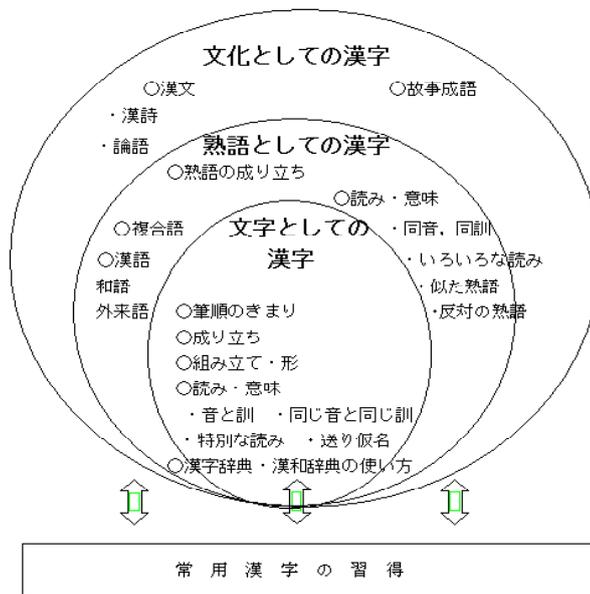


図1 漢字に関する学習内容

(2) 学年別の学習内容と到達目標

(1) を踏まえ「漢字文化」に関する学習内容を学年別に整理したものが表2である。

表2 漢字文化に関する小・中学校国語科の学習内容

学年	学 習 内 容	
小1	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字には筆順があることを知り、筆順に注意して書く。 ・「とめ・はね・はらい・おれ・まがり」等に注意して書く。 ・象形・指示文字の成り立ちを知る。 ・同じ漢字でもいろいろな読み方があることを知る。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な熟語を知る。
小2	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・筆順を理解し、正しく書く。 ・会意文字の成り立ちを知る。 ・漢字の古い形と比べ、漢字の成り立ちを知る。 ・形や読み方が似ていても意味や使い方の違う漢字を知る。 ・つながりのある言葉を集める。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な熟語を作る。

小3	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・形声文字の成り立ちを知る。 ・組み合わせると形の変化する漢字があることを知る。 ・漢字と漢字を組み合わせると別の漢字になることを知る。 ・同じ訓の漢字の使い方を知る。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字の熟語を知り、文中で使う。
小4	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・「へん・つくり・かんむり・あし・たれ」等、身近な部首を知る。 ・いろいろな部首の漢字を集める。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字の熟語を知り、文中で使う。
	文化としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の由来と意味を知る。
小5	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・会意・形声を中心に漢字の成り立ち4種類をまとめる。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・和語・漢語・外来語の違いを考え、探す。 ・特別な読み方を知る。 ・同訓異字・同音異字を知る。 ・複合語の組み合わせを知る。
	文化としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文「論語」の音読によって特有の言い回しやリズムを感じ、大体の意味を知る。昔の人のものの見方や考え方を知る。
小6	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名と片仮名は漢字を元にして生まれたことを知る。 ・同じ部分で同じ音、同じ部分と意味について知る。 ・筆順の有効性を理解する。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・二字三字の熟語の成り立ちを知る。 ・同訓異字・同音異字の使い分けをする。
	文化としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の由来と意味を理解する。 ・漢詩を音読し、大体の意味を知る。
中1	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・部首の名称と意味を知り、漢字の組み立てを理解する。 ・漢字が日本文化に伝えられた背景を踏まえながら漢字の読みの多様性（音読み・訓読み）を理解する。 ・象形・指示・会意・形声・（転注・仮借）の分類を理解する。国字を知る。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の読み方をする熟語を理解する。
	文化としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の由来・意味・価値や漢文の文体について理解する。 ・訓読の仕方を知り、「矛盾」書き下し文を音読して漢文独特言い回しに読み慣れる。
中2	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の意味や使い方を類推したり調べたりして同訓異字・同音異字の使い分けをする。 ・漢字と仮名を用いた日本語の表記の特徴を理解する。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・二字熟語・三字熟語・四字以上の熟語の構成を理解する。
	文化としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の味わい方を理解する。
中3	文字としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・翻訳語や社会や生活の変化によって新たに作られる熟語を知り、漢字の持つ造語力を理解する。
	熟語としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・和語・漢語・外来語・混種語を相手や場面に応じて適切に選ぶ。 ・「音・音」「訓・訓」の原則の読み方の他に「音・訓」「訓・音」等の読み方や熟字訓という読み方があることを理解する。
	文化としての漢字	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文「論語」を朗読し文体に慣れる。歴史的背景を踏まえて「論語」を読み、自分の生き方を振り返る。

漢字辞典・漢和辞典の使い方を理解し使い慣れる。

表 3 漢字文化に関わる到達目標

期	<p>文字として(筆順ア, 成り立ちイ, 読み・意味ウ, 組み立てエ)</p>	<p>熟語として(成り立ちカ, 読み・意味キ, 和語・漢語・外来語ク, 複合語ケ)</p>	<p>文化として(故事成語サ, 漢文・漢詩シ,)</p>
III期	<p>Stage エ 3・ウ 4 漢字と仮名を用いた日本語の表記の特徴を理解することができる。 Stage ウ 4 翻訳語や社会や生活の変化によって新たに作られる熟語を知り、漢字のもつ造語力を理解することができる。</p>	<p>Stage ク 2 和語・漢語・外来語・混種語を相手や場面に応じて適切に選ぶことができる。 Stage キ 5 熟語には「音・音」「訓・訓」「音・訓」「訓・音」、熟字訓という読み方があることを理解することができる。 Stage キ 4 漢字の意味や使い方を類推したり調べたりして同訓異字、同音異字の使い分けができる。 Stage カ 2 二字熟語・三字熟語・四字以上の熟語の構成を理解することができる。</p>	<p>Stage シ 3 漢文、漢詩を朗読し文体に慣れることができる。歴史的背景を踏まえて読み、自分の生き方を振り返ることができる。</p>
II期	<p>Stage エ 2 部首の名称と意味を知り、漢字の組み立てを理解することができる。 Stage ウ 3 漢字が日本文化に伝えられた背景を踏まえながら漢字の読みの多様性(音読み・訓読み)を理解することができる。 Stage イ 3 象形・指示・会意・形声・(転注・仮借)の分類を理解することができる。 Stage ア 3 筆順の有効性を理解することができる。</p>	<p>Stage ク 1 複合語の組み合わせを知ることができる。 Stage ク 1 和語・漢語・外来語の違いを考え、探すことができる。 Stage キ 3 複数の読み方をする熟語を理解することができる。 Stage キ 2 同訓異字・同音異字を知り、使い分けができる。 Stage カ 1 二字三字の熟語の成り立ちを知ることができる。</p>	<p>Stage シ 2 漢文、漢詩を読み、昔の人のものの見方や考え方を理解することができる。 Stage シ 1 漢文、漢詩を音読して特有の言い回しやリズムを感じ、大体の意味を知ることができる。 Stage サ 2・シ 1 故事成語の由来・意味・価値や漢文の文体について理解することができる。</p>
I期	<p>Stage エ 1 「へん・つくり・かんむり・あし・たれ」等、身近な部首を知ることができる。 Stage ウ 2 形や読み方が似ていても意味や使い方の違う漢字があることを知る。 Stage ウ 1 同じ漢字でもいろいろな読み方があることを知る。 Stage イ 2 形声文字の成り立ちを知ることができる。 Stage イ 1 象形・指示・会意文字の成り立ちを理解することができる。 Stage ア 2 筆順を理解し「とめ・はね・はらい・おれ・まがり」等に注意して書くことができる。 Stage ア 1 漢字には筆順があることを知り、筆順に注意して書くことができる。</p>	<p>Stage キ 1 既習の漢字の熟語を知り、文中で使うことができる。</p>	<p>Stage サ 1 身近な故事成語の由来と意味を知ることができる。</p>

3 中学校卒業時のめざす生徒像に向けた授業仮説

「伝統的な言語文化」に親しむ姿として中学校卒業時の生徒像を次に示す。

作品に関わる歴史的背景をふまえた深い読みを実現したり、関連する伝統的な言語文化にふれたりすることによって、古典にふれる機会を自ら求めようとする生徒。

上記の目指す生徒像に向けて、以下の授業仮説を設定した。

【Ⅰ期】

仮名や漢字を習得して語彙を増やしたり、さまざまなジャンルの文章との出会ったりする場を教師がつくることで、児童が漢字を身近に感じ、漢字文化を楽しむことができるであろう。

【Ⅱ期】

日常生活において使用できる漢字の数を増やしたり、言葉の意味や構成、語感の違いなどを意識したりする場を教師が工夫することで、児童・生徒が漢字のもつ奥深さに気づくことができるであろう。

また、時間や空間を隔て受け継がれる古典の言葉を通して、昔の人のものの見方や考え方をすることで、「漢字文化」への興味・関心をもつことができるであろう。

【Ⅲ期】

社会生活において必要とされる常用漢字を習得したり、語感を磨き、語彙を豊かにしたりする場を多くつくることで、生徒が漢字の特質を理解し、自らの表現に活用することができるであろう。

また、漢文を読むことを通して、歴史的背景や生活状況、生き方や価値観を知ることによって、「漢字文化」をより深く理解し、親しむことができるであろう。

Ⅱ 本年度の研究計画

1 研究の目的

今年度は、「漢字文化」に焦点をあて、小・中学校の学びがつながる授業のあり方を探っていくことにする。

2 研究の方法

(1) 学習指導要領及び教科書の内容から各学年における漢字の到達目標や学習内容を整理する。

(2) 以下の授業を実施し、授業仮説を検証する。

①Ⅰ期（小学校1学年） 単元名「めざせ！かん字はかせーよんでみようー」

【授業仮説】 漢字の読み方を調べ、同じ漢字でもいろいろな読み方があることを理解して文中で使うならば、漢字のもつ意味に関心を持ち、漢字学習を楽しむことができるであろう。

【単元計画】 第1・2時 同じ漢字でもいろいろな読み方があることを理解する。

第3時 漢字の読み方クイズを作る。

【検証方法】 ○学習前と学習後における漢字への興味・関心の変容を見取る。

○同じ漢字のいろいろな読み方を調べる様子、漢字クイズの作り方を分析する。

①Ⅰ期（小学校2学年） 単元名「めざせ！かん字はかせー書き分けはできるかなー」

【授業仮説】 同じ読み方をする漢字を集め、同じ読み方をする漢字の中には意味や使い方の違う漢字があることを理解して文中で使うならば、漢字のもつ意味に関心を持ち、漢字学習を楽しむことができるであろう。

【単元計画】 第1・2時 同じ読み方をする漢字には、意味や使い方の違う漢字があることを理解する。

第3時 どの漢字を使うかなクイズを作る。

【検証方法】 ○学習前と学習後における漢字への興味・関心の変容を見取る。

○同じ漢字のいろいろな読み方を調べる様子、漢字クイズの作り方を分析する。

②Ⅰ期（小学校3学年） 単元名「漢字のひみつ—形・音・意味—」

【単元名】 漢字のひみつ—形・音・意味—

【授業仮説】 漢字ゲーム活動の工夫をすることで、漢字の部分から読みや意味が想像できるようになり、漢字に対する興味が向上するだろう。

【単元計画】 第1時 漢字全体の成り立ち（象形文字や指示文字など）や組み立て（へん、つくり、かんむり、たれ、にょう、かまえ、あし）を知る。

第2時 漢字の部分から同音の漢字や似た音の漢字に気づき、いろいろな漢字の読みが予想できるようになる。

第3時 同じ部首の漢字の仲間分けを通して意味を想像し、部首の大まかな意味が理解できるようになる。

【検証方法】 ○事前、事後の児童意識調査により、漢字学習に対する意欲の変容を見取る。

○未学習の漢字に対する読みや意味が予想できるようになったかを見取る。

③Ⅱ期（小学校高学年） 単元名 時代を超えて心にひびく？「論語」のメッセージ

【授業仮説】 テーマに対する先人の考え方を自分の考えと比較したり、文脈の中で漢字一字の意味を調べて考えたりすることにより、児童は漢字のもつ奥深さに気づき、「漢字文化」への興味・関心をさらにもつことができるだろう。

【単元計画】 第一次 「漢文」「論語」「孔子」について知ろう。

第二次 「論語」を読もう。

「親孝行」「学ぶこと」「立派な人」

第三次 「論語」のように表現しよう。—簡単な漢文づくりと解説文—

【検証方法】 ○単元末での児童のふりかえりの記述を分析する。

○毎時間の児童観察とノート記述を分析する。

④Ⅲ期（中学校3学年） 単元名「漢和辞典でひらく漢詩の世界」

【授業仮説】 日本語を表現する文字として既に獲得した「漢字」を、漢語として、語の構成や意味をとらえ直す学習を設定することにより、詩の情景、心情の理解に役立てることができるだろう。

【単元計画】 第一次 熟語の構成、漢文訓読のきまり、漢和辞典の使い方を学ぼう。

第二次 「漢詩」を読み味わおう。

第三次 自分の思いを漢詩で表現し、交流する。

【検証方法】 ○授業実践後の書いた生徒作品（漢詩）を、ルーブリックにより評価する。

○漢字及び漢文に対する意識調査を授業実践前後に行い、結果を比較検証する。

【参考文献】

文部科学省、『小学校学習指導要領解説 国語編』, 2008

文部科学省、『中学校学習指導要領解説 国語編』, 2008

文化審議会答申、『これからの時代に求められる国語力について』, 2004

全国大学国語教育学会編、『国語科教育学研究の成果と展望』, 明治図書, 2002

田近洵一・井上尚美編、『新訂 国語教育指導用語辞典』, 教育出版, 1984

難波博孝・東広島市立原小学校、『伝統的な言語文化の授業づくり』, 明治図書, 2009

日本言語技術教育学会、『言語技術教育19 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは』, 明治図書, 2010